

一般社団法人日本デフボウリング協会

中長期計画

2025 年度～2029 年度



2025年11月

## 1. 事業展開に関する中長期ビジョン

「デフボウリング愛好者が、本協会での活動を通して、生き生きとした生活を送るとともに、社会参加が差別・格差なく実現され、スポーツで社会に貢献していく」

## 2. 基本的な考え方

わが国における聴覚障がい者のボウリング統括団体として、ボウリングを通じて聴覚障がい者スポーツの普及・振興を図り、広く国民の心身の健全な発展に寄与することを目的に運営する。その中で、聴覚障がい者のオリンピックである、「夏季デフリンピック競技大会」を最高峰の国際大会と位置づけ、日本代表選手を輩出していくこと、また、その日本代表選手が優秀な成績を収めることができるように選手強化事業、選手育成事業、選手発掘事業などを実施していく事を目的とする。

他の国際大会にも日本代表選手を派遣し、各種国際大会において、優秀な成績を収めることで国際競争力を示し、国内外にデフボウリングが広く認知される事を目指していく。

## 3. 組織の在り方について

(1) 組織運営については、聴覚障がいのある人が主体でありながら、聴覚障がいの無い人とも交り合い協力し合いながら、持続可能な運営を行うことを目指す。

(2) すべての関係者が障がいを理解した上で、組織運営に携わっていく。

(3) 組織外とのネットワーク作りを日頃から構築するよう努め、開放的で信頼される組織にしていくことを目指す。

(4) 新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながら、次世代の育成・継承を考えた体制を整えていく。

(5) トップ選手だけでなく、聴覚障がいのある人が日常的にボウリングを楽しむことができる環境の整備にも寄与する組織となることを目指す。

(6) ボウリング競技を通じて、共生社会を目指す組織となる。

## 4. 事業計画の概要と現状分析

### (1) 競技会事業

全国ろう者ボウリング大会、全国ジュニアボウリング大会、全日本デフボウリング選手権大会のスムーズな運営と、大会ボランティアの増加を目指す。

### (2) 強化関連事業

日本代表選手の選考会、強化合宿、国際大会のエントリー等を実施

### (3) 指導普及事業

各地域の障がい者スポーツ指導員研修会に積極的に参加していく。

### (4) ガバナンス事業

アンチ・ドーピング、コンプライアンス研修等を積極的に行う。

日本代表選手においてはドーピング検査とアンチ・ドーピングの普及・啓発活動を実施。会員を対象としたコンプライアンス研修を毎年行う。

## **5. 事業戦略<アクションプラン>**

### (1) 障がい者スポーツ（聴覚障がい者スポーツ）の推進

聴覚障がいのある人がより身近なところでストレスなく練習、トレーニングに打ち込める環境を整備するため、選手が拠点にしている区市町村や地域スポーツクラブ、施設等と協働事業を実施していく。今後、より一層地域での練習や競技の環境を推進するように、当協会と地域センターが一体となって継続的に進めるとともに、事業を実施した地域での定着化も進めていきたい。また日本ボウリング協会とも連携を深めていく。

### (2) 啓発事業の推進

聴覚障がい者のオリンピック「デフリンピック」やその他の国際大会で選手達が好成績を収め、世間から注目されるようになるよう、環境整備そして円滑な団体運営を図っていく。

### (3) 競技力の向上

聴覚障がい者アスリートが活躍することがデフスポーツ全般の知名度向上につながるため、2025年に開催される東京デフリンピックに向け選手強化を図り、メダル3個獲得を目指す。自国開催に向けては、知名度向上・地域の理解が進むよう事業を推進する。

### (4) 選手発掘

選手を発掘し、育成・強化をする。競技力が向上することで知名度も上がり、デフスポーツ理解の輪が広がり、選手の増加を目指す。また、優秀な指導者を配置できるように関係機関と連携し、コーチ育成強化事業も実施する。

### (5) 企業・団体等と障害者スポーツとの連携

2025年東京デフリンピックを契機にデフスポーツの関心が高まりつつある中で、関係機関や企業・団体等からの障害者スポーツへの支援や連携について相談に応じるとともに、情報提供、企画提案、実施支援を行い、デフスポーツの振興を推進する。

### (6) 広報強化

競技会の様子を発信したりSNSなどを活用して世の中に幅広く情報を提供し、多くの方にデフボウリングの魅力を広め、応援者や選手希望者を増やしていく。ろう者には、競技を始めるきっかけとしていく。

### (7) 2025年夏季デフリンピック大会後

ろう者スポーツの祭典「デフリンピック」でも日本での認知度は2021年調べで17%程度とパラリンピックの98%に比べると大変低く、ろう学校でもオリパラ教育が平成29年度より実施されているものの、使用される教材にデフリンピックの記述は少ない。ろう学校の生徒ですらデフリンピックのことを学ぶ機会が少ない等の課題に向き合い、ろう者のスポーツを盛り上げていく。また、手話通訳や字幕表示などの他、試合を魅せるエンターテインメント性にも着目し、工夫をしていく。

## （８）経営基盤強化の推進

上記の施策を実行していくことで会員数の増加やスポンサー企業・パートナーシップ企業などの獲得に繋げていき、自主財源を増やして、助成金に頼らない健全な経営を目指す。

## 6. 人材・財務の現状分析と課題

### 達成目標

#### ■人員体制について

##### 《課題》

（１）事務局人数が少ないため、一部の担当者に多くの負担がかかっている。

（２）経常的な業務に関わる職員が十分に確保されておらず、業務に応じた適切な分業がなされないことから、事務局員の負担が高く、業務の継続的・安定的な実施においてリスクを抱えている。

《目標》 組織運営を担う人材の配置・育成・強化 人材の配置・育成、強化にあたっては、基礎となる聴覚障がい・障がい者スポーツに関する一定の知識・技能に加え、幅広い視野と見識を培い、課題の解決ができる資質・能力を重視する必要がある。

（１）障がいについての理解・知識を有し、手話によるコミュニケーションがとれることが望ましい。

（２）業務を合理的に行い、効果的な事業計画を企画・立案する上で必要となる一定以上の専門的な知識・技能を身につけた人材を充実させ、事務局は最低２名とする。

（３）スポーツに関わる資格を有する人材の養成促進。

（４）女性の視点を反映していくことが重要であるため、理事の４割以上が女性となるよう人材の確保及び育成をする。

（５）次世代を担う人材育成に向け、組織の理念や文化を深く理解してもらうために、役員、運営スタッフ、現役選手等と豊かな交流を通して、次世代の人的資源を育成することにより、世代交代を促進する。

（６）大学・ろう学校だけではなく、体育・スポーツ系の大学や専門学校を中心とした教育機関や地域のスポーツクラブとの連携による人材確保。大学・ろう学校・全国の聴覚障害者協会との交流を図り、スポーツボランティアの確保に努める。

#### ■財務について

##### 当協会の収入

① 登録料（事務手数料など）

② 事業収入（参加費・競技会エントリー費など）

③ 助成金、寄付金（公的機関からの助成金、企業・個人からの寄付金など）

##### 当協会の収支について（支出）

①事業費（競技会の運営費、代表選手の渡航費、主催事業、強化事業）

②管理費（協会事務局機能の維持に必要な支出）

### ③その他

《課題》 固定収入が少なく、助成金が主な収入源である。事業費は選手登録、エントリー代で運営されているが、助成金頼みとなっているため予算に余力がなく、将来を見据えた計画を立てることが難しくなっている。スポンサー獲得が困難な状況。

#### 《目標》

- (1) 財政的に自立するために、まず自主財源の確保（登録料、事業収入等）をする。
- (2) 国及び公的団体に対してデフスポーツに関する助成制度等、必要な支援を講ずるよう働きかけを行う。
- (3) 当協会が、地域の人々と社会に貢献する意義と役割を社会的に訴求するとともにデフスポーツの普及・振興を図り、企業等からの協賛や寄付、外部からの財源確保に係る体制の整備にも努める。
- (4) スポンサー獲得（目標2社）と会員数アップ。

### 7. 総合的な達成目標（ビジョン）

- (1) 持続可能な組織運営に向けた、基盤強化
  - ・ボランティアベースの業務から報酬制度を作り、専任職員を確保する。
  - ・事務局人数を増やし、対応力を強化する。
- (2) 認知度の向上
  - ・大会やイベントなどを通じて、デフボウリングの普及啓発活動を実施する。
- (3) 会員数増加
  - ・普及啓発活動、主催大会の露出、新しい様式での配信やエンターテインメントを実施する事がデフボウリングの認知度向上→会員数の向上につながる。
- (4) スポンサー企業獲得
  - ・認知度向上がスポンサー企業獲得につながるため、東京デフリンピックを契機に、様々な場面で広報活動に努める。
- (5) 競技力向上
  - ・競技人口の増加、会員数の増加を競技力向上に繋げる。